

目次

57	巻頭言	幸島 司郎
58	連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第12回	雪山でサルを追う…山極 壽一
60	連載「今日もOSARU日和」第2回	キュータロウとミカン…竹下 景子
62	連載「生態学者が往く」第8回	マレーシア・ダナムバレイの旅…湯本 貴和
64	連載「野生動物を遺伝子から見る」第3回	屋久島の森で…村山 美穂
66	連載「野生動物のおなかの中の秘密」第3回	野生ニシローランドゴリラの不思議な食習慣…牛田 一成
68	連載「大型類人猿探訪」第15回	オランウータンをたずねて…林 美里
70	連載「ウマ学ことはじめ」第15回	気ままに生きるスペインのポニー…リングホーファー 萌奈美 レナータ メンドンサ
72	連載「自然と芸術」第12回	粘土あそびとコンピュータお絵かき…松沢 哲郎
74	連載「海外生息地調査」第15回	ボルネオ島の霊長類…舟橋 昂
76	連載「動物園・水族館だより」第6回	ただの事務員、チンパンジーの生息地へ…安倍 由里香
78	2019丸の内キッズジャンボリーに参加して	内藤 アンネグレート素
80	たき火にあたるサル60周年と伊勢湾台風	木村 直人
82	タラ：ネパールラングールのあかんぼう	ヒマニ ノティヤル
84	ご寄附のお願い・イベントのご案内	

■表紙の言葉

メガネザル、英語名は Tarsier。「ターシャ」。霊長目メガネザル科。インドネシア、ボルネオ島、フィリピン諸島など、東南アジアの島々に生息する。名の由来となった大きな目に大きな耳が特徴だ。両手にすっぽり入るほどの大きさで尾が長い。ボルネオ島北部、マレーシアのサバ州にあるダナムバレイの森のナイトサファリでニシメガネザルを見た。1999年から今回の2019年まで学生たちと数回訪れている。2011年のときスザーナ・カルバリーヨさんとクローディア・ソウザさんと見たのが最初だ。スザーナはオックスフォード大学の准教授になり、クローディアは2014年に惜しくも早世した。そういうえば彼女も目がぱっちり大きかった。(撮影：湯本貴和、2019年8月25日)



松沢 哲郎 まつざわ てるお

京都大学高等研究院・特別教授。霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院のコーディネーター。公益財団法人日本モンキーセンター・所長。中部大学創発学術院・特別招聘教授。

巻頭言

幸島 司郎 (京都大学野生動物研究センター)

今年の7月までの5年間、アマゾンを中心に位置するブラジルの大都市マナウスに、アマゾンの貴重な自然の研究や保全・教育に貢献できる新世代型の動物園・水族館「フィールドミュージアム」を整備するプロジェクトを進めてきた。国際協力機構(JICA)と科学技術振興機構(JST)、京都大学の協力による地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)「フィールドミュージアム」構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクトだ。

今、地球最大の生物多様性ホットスポットであるアマゾンが危機にさらされている。特に、工業都市として発展しつつあるマナウス周辺では、貴重な森や川が次々に失われ、多くの動植物が絶滅の危機にある。たとえば、アマゾンマナティーやアマゾンカワイルカは、長年の乱獲や密猟によって確実に数を減らしており、マナウス周辺の森だけに生息する小型霊長類、フタイロタマリンも絶滅に瀕している。そこで、我々はアマゾンカワイルカやナマケモノの生態研究や保護されたアマゾンマナティーの野生復帰事業などを進めてきた。

この地域の自然を守るには、これらの研究や保全活動だけでなく、地域の人々に身の回りのアマゾンの自然の素晴らしさや大切さを理解してもらうことが重要だ。しかしこれまでは、この地域の人々がアマゾンの動物や森を見たり理解したりできる施設や機会がほとんどなかった。そこで我々は、国立アマゾン研究所と協力して、この地域の自然の研究や保全、環境教育に貢献できるだけでなく、質の高いエ

コツーリズムを通して、地域社会の持続可能な発展にも貢献できる「フィールドミュージアム」を整備することにした。これは、従来の動物園・水族館のような大規模な箱物施設ではなく、飼育・半飼育・野生環境で本物のアマゾンの生物を観察できる小規模施設と保護区のネットワークである。このプロジェクトでは、その中核施設として、マナウス市内とその郊外に、マナティーの飼育施設と半飼育施設、水生生物観察施設、森林観察タワーなどの森林観察研究施設、展示施設やビジターセンターなどを整備して、地域の人々や国内外からの観光客の環境教育やエコツーリズムに役立てることにした。特に、マナウス近郊のクイエイラス川流域にある貴重な原生林に整備したフィールドステーションには、ビジターセンターを兼ねた多目的棟と60名が滞在可能な宿泊棟があり、長期調査の拠点として、また、流域の先住民コミュニティとの協力による質の高いエコツーリズム実践の場として活用される予定である。将来的には、これがモデルとなり、フィールドミュージアムの概念がより多くの人に共有されて、さらに深められ、日本や世界に広がってゆくことを願っている。



幸島 司郎 こうしま しろう

京都大学野生動物研究センター・教授。霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院の分担者。氷河にすむ昆虫やミジンコを世界で初めて発見し、氷河にも特殊な生態系が成立していることを明らかにしてきた。同時に、イルカやオランウータン、ゾウ、バクなど、さまざまな動物の生態や行動を学生と共に研究している。